



# NEWS

CHUKYO UNIVERSITY

For **D**oing our best!

2019.4.1 No. **17**

## **[特集]** 大学の学びについて知ろう!



### 中京大学の FDとは

FDとは、授業内容・方法や広く大学の教育に係る活動を改善し向上させるための組織的な取り組み (Faculty Development) のことを意味します。中京大学では、FDを“大学のすべての者の幸せのため”と位置づけ、それを目指して学生・教員・職員(三者)がベストを尽くすもの (For Doing our best) ととらえています。

## CONTENTS

### **[特集]** 大学の学びについて知ろう!

- 大学の授業ってどうなっているの? ..... ②
- CHUKYO MaNabo活用事例①・② ..... ⑤・⑥
- 授業の履修にはシラバスを活用しよう ..... ③
- 授業改善のためのアンケート ..... ⑦
- CHUKYO MaNaBoで大学の「学び」を充実させよう ④
- ルーブリック活用推進に向けた取り組み ..... ⑧

# 大学の授業って どうなっているの？

大学の授業の仕組み

毎日ALBO<sup>※</sup>を  
チェック

※ALBOとは、授業に関するお知らせ(休講・補講等)を掲載しているポータルシステムです。

## 大学のカリキュラム<sup>※1</sup>

大学のカリキュラムは、全学共通科目と、学部固有科目から構成されています。全学共通科目の履修を通じて総合的な知識を身につけるとともに、論理的思考力とコミュニケーション能力を磨きましょう。学部固有科目では専門的な知識や技術、課題の発見から解決方法までを身につけます。それぞれの学部・学科(専攻)の教育研究上の目的が学生便覧に記載していますので、まずはその目的を理解しましょう。

## 授業の選び方

大学の授業は、必修科目<sup>※2</sup>、選択必修科目、選択科目の3つに分類することができます。まずは学生便覧でカリキュラムをしっかり理解しましょう。次に、自分が履修すべき授業は事前にシラバスで内容をチェックしましょう。選択科目はたくさんの授業の中から興味のある科目を履修することができます。授業を選ぶときはシラバスをよく読んで、自分が身につけたい分野の授業を選択しましょう。また、学科目時間割表も忘れずに確認しましょう。

## 授業を選ぶ上で最低限必要なアイテム

学生便覧、学科目時間割表、シラバス。これらは大学ホームページで参照できます。

大学の授業って高校の授業とどう違うのかな？



大学の授業は基本的には自分で4年間の履修計画を立ててどの授業を受けるか決めるんだよ。



まず必修科目を取らないといけないんですね！でも選択必修や選択科目は？内容もわからないし…



大丈夫。そんなときのために大学にはシラバスがあるんだよ。



シラバスってどんなことが書いてあるのかな？なんか難しそう…



ではシラバスがどんなものであるか見てみよう。次のページがシラバスの具体例だよ。



### POINT1

**確認しよう！** **まずは学生便覧を** どの年次にどの科目を受講することができるのか、学生便覧の科目一覧表のページに記載されています。

不安・疑問を  
放置しない

### POINT2

**自分の将来や興味に関係ある科目を見つけよう！** 大学ではセメスター<sup>※3</sup>ごとに履修できる単位数の上限が決まっています(履修登録制限単位)。必修科目を確認した後は、選択必修科目や興味のある科目を探し、制限単位の範囲内で履修科目を決めましょう。資格取得に必要な科目など、履修登録制限単位に含まれない科目もあります。

### POINT3

**授業内容はシラバスで確認しよう！** 科目の授業内容はシラバスに書いてあり、パソコンを使用して大学のホームページで確認できます。詳しくは学生便覧の「大学からのお知らせ」ページを確認してください。わからない時には教務課で質問してください。

#### 用語解説

※1 **カリキュラム (教育課程)**  
教育目標を達成するために、学修段階に応じて編成した4年間にわたる教育内容の計画のこと

※2 **必修科目**  
卒業するために必ず修得しなければならない科目

※3 **セメスター**  
1年を春学期と秋学期に分け、各学期ごとに単位認定を行う制度のこと

教務課職員を上手に頼ろう！

教務課職員からのメッセージ



大学には、主役である学生のみならずに加え、教員と呼ばれる授業を教える立場の人、職員と呼ばれる大学生活を支援する立場の人が存在します。その中で私たち教務課職員は、学生のみならずの学修を支援する立場にあります。

みなさんが大学で学修する上でまず行うことは、自分オリジナルの時間割作成です。大学の時間割は、各自が受ける科目を選び、作り上げていきます。わからないことがあれば積極的に教務課に来て相談してください。大学で授業(学び)を充実させる上でも、私たち職員を活用してください。

# 授業の履修にはシラバスを活用しよう!

## ～シラバスの見方や活用法を解説～

### シラバスとは?

授業科目について、授業概要や授業方法、評価基準などが記載されているものです。履修登録をする際にどの授業を履修するのかを決める重要な資料となります。

### シラバスの概要

#### 授業方法

どのように授業を展開するのか書いてあるよ。講義形式などを確認しよう。

#### 質問への対応

授業に関する質問を、いつ、どこで、どのように受け付けるのかをここで確認しよう。

#### 授業計画

授業の各回で何を学修するのかがあらかじめわかるよ。予習する手がかりにしよう。

#### 履修者へのコメント

授業を履修する上での注意事項やアドバイスが書いてあるよ。

The screenshot shows the 'シラバス詳細' (Syllabus Details) page for the course '中京大学を知る' (Introduction to Chukyo University). The page includes fields for course name, semester, units, and a detailed syllabus table. Red arrows point from the explanatory text on the left to specific parts of the syllabus page.

No.	項目	内容
1	授業ガイダンス	「中京大学を知る」で何を学ぶのか、中京大学の特性とは
2	大学とは	「大学の使命・目的・歴史、世界と日本の大学、中京大学」、ゲストスピーカー・長滝祥司(国際教養学部教授)
3	開学前史 ①	学園創立・中京商業学校開校のころ、100年前の中京古屋、中京経済圏の成立と開校の背景
4	開学前史 ②	学園創立者の生きた時代と校訓、「学園創立者の人物像と校訓」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)
5	開学前史 ③	中京商業学校の歩み、戦中・戦後の中京古屋、新制中京商業高校と短大開学のころ
6	中京大学の歩み ①	大学開学者の生きた時代と建学の精神、「大学開学者の人物像と建学の精神」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)
7	中京大学の歩み ②	1955～65年の経済・社会と中京大学、2学部の時代
8	中京大学の歩み ③	1966年以降の経済・社会と中京大学、4学部の時代
9	中京大学の歩み ④	スポーツ史からみた中京大学、「中京大学とオリンピック選手」、ゲストスピーカー・栗田享子(スポーツ科学部教授)
10	中京大学の歩み ⑤	1986年以降の経済・社会と中京大学、総合大学の時代
11	中京大学の歩み ⑥	2000年以降の経済・社会と中京大学、改革の時代
12	中京大学の現状	日本の大学と中京大学の今、現代的課題への取り組み、「男女共同参画とキャンパス・ハラスメント」、ゲストスピーカー・鹿間孝(国際教養学部教授)
13	中京大学の現状	日本の大学と中京大学の今、学術・研究の観点からみた特性、「研究からみた中京大学の特色」、ゲストスピーカー・桑村監生(学長補佐)
14	中京大学の将来	日本の大学と中京大学の将来像、学園創立100周年、大学開学70周年に向かって、「ミュージアムと中京大学」、ゲストスピーカー・亀井哲也(現代社会学部教授)
15	中京大学の特性	歴史からみた中京大学の特性を考える、「今、大学に求められていること、今、中京大学が目指していること」、ゲストスピーカー・安村仁志(学長)

### 学修到達目標

この授業を履修すると、どのようなことが身につくかを確認できるよ。

### 成績評価方法・基準

どのように成績評価をつけるのか、課題・試験の成績への反映比率などがわかるよ。

### 事前事後学習

授業の予習や復習に関することが書いてあるよ。

### 教務課職員からのアドバイス

シラバスは授業の説明書のようなものです。卒業要件や自分の興味・関心に基づいて科目を選択し、しっかり内容を確認して、時間割を組み立てる上での参考にしてください。教務課では、履修相談も受け付けますよ! なお、シラバスは以下より閲覧可能です。履修登録前に必ずCHECKしましょう。

中京大学HP→「メインメニュー」(左上)→「学部・大学院」→「学部教育」→「シラバス(学部)」  
<https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus> QRコードはコチラ→



# CHUKYO MaNaBoで大学の「学び」を充実させよう!

## CHUKYO MaNaBoとは

「CHUKYO MaNaBo」はレポート提出や授業資料のダウンロードなどができる学習管理システムです。中京大学のスクールカラーを取り入れ、学生のデザインしたロゴを配置したインターフェースは、学生のみなさんに親しみをもって活用してもらえるよう、誰にでも使いやすい仕様となっています。

動画や音声を用いた教材などもあり、授業の事前・事後学習をより効果的に行うことができます。提示された課題に積極的に取り組むことで、知識のさらなる定着が期待できます。またトップページには時間割が表示されており、新着情報のある科目には「New」のアイコンが表示され、情報を見逃さないような工夫がされています。更に、受講科目ごとの利用画面にはシラバスが反映されているので、毎回の授業内容や学修到達目標を確認しながら学習を進めることができます。

## 活用方法

MaNaBoは様々なデバイスで利用できます。新入生のみなさんが入学時に用意したノートパソコンをはじめ、専用のアプリ<sup>\*1</sup>をインストールしてスマートフォンやタブレットでも利用することができます。通学中のスキマ時間なども有効に活用して、主体的に学ぶ習慣を身につけていきましょう。

\*1 携帯端末専用アプリ「Glexa mobile」はApp Store、Google Playからダウンロードできます

## 先輩たちの声



授業に関する質問を「FAQ」にまとめたものや追加資料などを掲載してくれる先生、何回でも受講できる小テストを提示してくれる先生もいて、定期試験前の復習に便利です。



アイテム名	名前	必要	提出	評価	完了	経過	平均	最高	最低	コメント
トップ	小テスト (準) 503	1 / 6	17%	✓	✓	1	0	0	0	
トップ	Quiz	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	良い授業です
トップ	Report	25 / 100	25%	✓	✓	2	30	100	25	
トップ	test	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	
トップ	Mission	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	
トップ	10/10 実数を用いた計算	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	
トップ	Quiz	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	
トップ	Quiz	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	
コンテンツ	10/10 実数	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	
20181001	Report 1	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	
20181013	Quiz A	3 / 3	100%	✓	✓	2	30	100	25	
20181013_46	Quiz B	3 / 3	100%	✓	✓	2	30	100	25	
20181013_461	Quiz C	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	
20181013_112	Quiz D	0 / 5	0%	✓	✓	2	30	100	25	
20181013_1	Quiz E	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	
# 5	Forum	✓	✓	✓	✓	2	30	100	25	

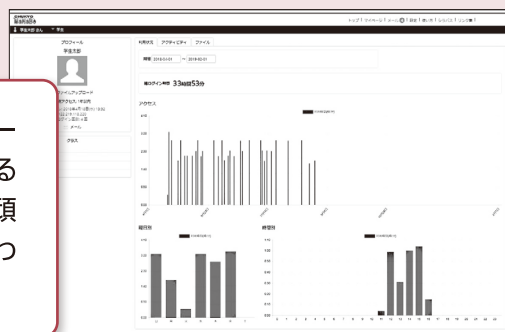
毎回予習・復習の課題を提示する先生の授業は大変だったけど、頑張って取り組むことで理解が深まりました。



毎回コメント提出を課して次回授業までにMaNaBoにフィードバックを掲載してくれる先生が、自分の質問に対し「いい質問ですね」とコメントしてくれているのを見ると、やっぱり嬉しいです。



受講した課題やレポートの提出状況を「マイページ」で確認できるので、自分の学習状況を振り返るとゲームの高スコアが出たみたいに「これだけ頑張った!」という達成感を感じて、ますます意欲がわいてきます。



# CHUKYO MaNaBo 活用事例①

「ニューロインフォマティクス論」  
工学部  
石原彰人  
教授

## MaNaBo利用のきっかけ

この科目では、講義形式の授業回での学習内容を具体的にイメージさせる目的で、授業回の節目に学生にその演習結果を提出させます。また、他の教科でも期末テストの結果などから練習問題を利用する学習が効果的と感じていることから、その他の回では講義後に小演習として、いくつか練習問題を解く課題を出してきました。

当初は、紙ベースで演習結果や小演習結果を受け取り、チェック後、次の回に返却するという形で実施してきました。しかし、かける手間・時間と学習効率の関係や、履修者へのフィードバックが1週間必要なことに課題がありました。2017年度MaNaBoが新しくなったところで新機能が追加されたため、試しにその機能を積極的に利用してみることにしたことが利用のきっかけになります。

## 授業での活用と工夫

出席確認の他に、コンテンツ追加、教材 Quiz と Report を利用しています。コンテンツ追加は、電子資料について予習できるよう授業日前に事前配布することに利用しています。

Report は、計算機演習用の資料配布や、演習結果の回収、チェックおよび履修者へのフィードバックに利用しています。電子的に管理されますので、未提出者の把握が簡単になりました。また、演習内容に関する質問なども同時に受け付けており、たまに質問があった場合には、個々の履修者に対する回答できることも良い点かと思います。

Quiz は、講義後の理解度チェックとして、あるいは復習用の練習問題として利用しています。Quiz 中の問題集の機能を使うことで、例えば20問準備した小問中から10問のみ出題することが可能になります。履修者には、そのうちある一定割合以上正答することを課題として出します。履修者は、解答した段階ですぐに正誤のみ確認でき、繰り返しトライして課題をクリアすることが可能です。

準備した問題集の枠内ではありますが、履修者ごとに毎回ランダムに違う問題が提示される設定としているため、履修者は、自分の力で解く必要があります。また事後学習に役立ててほしいという狙いから、授業日後も1、2日は、ペナルティ無しに解答可能とし、一旦締め切ったのち、再度利用できる形にしています。正解率などの統計情報もMaNaBoから参照可能のため、説明が不足していたポイントであれば、次の回にフォローできるなどの対応もとれます。その学習効果について使い始めたばかりで、手さぐりな部分もまだまだありますが、問題集の充実の他に、学習の様子を把握できる利点も活用しながら修正を予定しています。

## 履修者の変化

紙で小演習を提出させていたときと比較しMaNaBoを利用することで、特に理解度チェックについては、解答後すぐに結果がわかることや、繰り返し学習に利用できることで高い効果が得られていると考えています。この科目は、複合領域の学問分野であり適切な書籍がまだないため、教科書を指定していないことから、履修者は学習方法を工夫する必要があります。その中で、理解度チェックは、練習問題として利用できる面があると考えます。期末テスト結果をみても、熱心に利用していた履修者の得点は高い傾向にあり、学習に役立っているのではないかと感じています。

## CHUKYO MaNaBo 活用事例②

「日本語教授法I」  
国際英語学部

森山真吾  
准教授

### MaNaBo利活用の目的

- 復習や予習として指定する課題の実施率と達成度を事前に把握してから授業に臨みたい
- 履修者本人が事前に内容確認することで、「私は聞いていない」「私は欠席していた」「私は課題を提出した」などの問い合わせを減らしたい
- 授業で得た知識や技術を使って発展応用させる学習活動に各履修者が個別に判断する必要十分な時間で取り組ませたい  
これらの希望をMaNaBoで達成できるように試行錯誤しています。  
MaNaBoには、2つの主要な特徴があるからです。
- 教員と履修者が持っている成績情報を同期して共有できる
- 学びの場所を教室外にも作り出すことで学習時間を増加できる

### 授業での活用と工夫

数ある基本機能の中で **出席確認** **お知らせ** **コンテンツ追加** **Quiz** **Board** **Motion** を授業展開の方針に合わせて使うときには、運用で利便性を高めています。例えば、「出席確認」にクイズを取り入れています。通常はボタンをクリックすれば出席扱いとなるのですが、クイズの正答を出席コード(パスワード)にしています。時事問題を扱うことが多く、先日は人名の「ゴーン」をアルファベットで入力させました。知識確認と欠席扱い回避のために答え合わせをしているので、授業開始時のウォーミングアップにもなっています。

**コンテンツ追加** をURL提示に活用しています。打ち間違いが発生しやすい手入力をさせずに、クリックのみで指定のウェブページを閲覧してもらうためです。また、ワークシートなどの資料を電子ファイルで配布したいときにも役立っています。履修者別にダウンロード状況を確認できるのも利点です。

**Quiz** をチェックリストとしても使っています。期待する学習行動を履修者自身が把握するためです。できていなければ自ら補えるように振り返りと見直しを促進できます。例えば、「学習指導案に目的を記載しましたか」「最長20分間で終了できる授業展開にしましたか」と尋ねます。このときには、短時間で回答しやすい二者択一(「はい」「いいえ」)で尋ねることが多いです。

**Motion** では動画視聴中に内容理解度を測定する問題を提示して解答の正誤によって動画再生箇所を変化させています。正答では継続再生し、誤答では指定ポイントへ自動で巻き戻し、再視聴させます。新しい知識に触れる予習の段階で履修者の理解度を教員が把握できるので、授業進行の調整に重宝しています。

また、各教材(課題)の種別を表示件名に含めています。「予習:」「復習:」「授業中:」で書き始めることで指定教材を使うタイミングが明確になっています。

利活用における工夫のもう一点は、学習期間の指定です。学習項目によっては復習と予習の課題提示期間をずらしています。復習期間が終了してから少なくとも数時間が経過した後に予習課題を提示することで、学習機会を週あたり2回は持ってほしいからです。「宿題を一度に片付ける」学習スタイルをできるだけ排除できます。目安として、復習は該当授業終了後3日以内、予習は復習期間終了後から授業開始前日までに設定しています。これらの学習期間は事前に提示しているので、履修者が自ら学習計画を立てることに役立っていると思います。

### 履修者の変化

出席情報と学習進捗確認、最終成績に対する安心感が増しているようです。画面上の電子記録を履修者自身がリアルタイムで把握でき、その情報は教員側の情報と同じであることが保証されているからです。また、授業の進行とその前後に発生する予習復習を履修者が良い意味で気にかけるようになり、教室の内外で学習内容について思いを巡らし取り組む時間を増やしているようです。そのため、印象として、過年度よりも課題の達成率が上がっています。MaNaBoへのアクセスとMaNaBo上で発生する学習が生活習慣の一部になって「日常的に学んでいる」という実感を学習時間の増加と学習行動の質変化から履修者は自認できていると思います。

# 授業改善のためのアンケート

中京大学では、提供するカリキュラムや授業等の学びの機会が、学生の皆さんにとってより良いものとなるよう、様々な教育改善に関する活動を行っており、全学的な取り組みの一つに「**授業改善のためのアンケート**」の存在があります。このアンケート結果から授業に対する満足度や意見を知ること、授業改善に結びつけていく努力をしています。2018年度春学期の回答率<sup>※1</sup>は**70.0%(対前年同)**、秋学期の回答率は**65.4%(対前年1.3%増)**となりました。

一人でも多くの皆さんが真摯に回答することにより、より正確なアンケート結果となり、学生の皆さんの声によりよいカリキュラムや授業等の改善につながります。2019年度からはアンケートをWEB(MaNaBo)で実施する予定ですので、引き続きご協力をお願いします。また、授業アンケートの集計データと、結果に対する教員のコメントを閲覧可能とし、全学的な共有化を図っています。

※1 回答者数÷履修者数×100

## ・ 授業改善のためのプロセス ・



**授業改善のためのアンケートを実施** ※各学期の第13～14週に実施  
2019年度からWEB(MaNaBo)で実施予定

アンケート回答結果を授業担当者へフィードバック

授業担当者はアンケート結果をもとに次年度以降の改善に向けたコメントを入力

これを  
確認しよう!

アンケート結果と教員コメントを学内閲覧システムにて公開  
※自分が履修した以外の科目の情報も見ることができます

**学生**

アンケート結果と教員コメントを  
科目履修の参考にする

**教員**

アンケート結果をもとに、  
担当科目の授業改善に結びつけていく

本学では、授業環境や学内環境の改善に向けて、学生のみなさんの貴重な意見を集約し、今後の環境整備等の参考資料として活用することを目的に「**授業環境・学内環境に関するアンケート**」も同時に実施しています。具体的には、教育支援システム、教室の照明、空調、机、Wi-Fi環境、学習スペース、休憩スペースなどがその対象です。学生のみなさんから届いた声は学内で公開するとともに、環境整備や計画策定に役立っています。



ループリックとは、学生が何を学習するのかを示す「評価の観点」と学生の学習到達レベルを示す「評価の尺度」に基づいて、「評価の基準」が記された評価表のことです。

## ループリック研修会

● 開催日:2018年12月15日(土)

ループリックに関する基本的知識を学び、深め、またその作成と活用方法を実際に体験することで、授業での積極的な活用につなげていくことを目的に、関西大学教育推進部岩崎千晶准教授を講師としてお迎えし、専任教員を対象としたループリック研修会を開催しました。研修会の前半では、ループリックに関する基本的知識を学び、後半では、課題ループリックの作成と活用を体験するとともに、作成したループリックに関する意見交換などを行い、ループリックに対する理解を深めました。



### 参加者の声

ループリックの一番良い点は評価を「見える化」することであると私は感じました。「見える化」することで、学生はピンポイントで到達度が判断でき、次に修正するべき点を自分で理解することができます。また、教員は均等に学生を評価することや学生の目標達成度を把握することができ、改善点が明確にわかるため授業改善に使用できます。このようなメリットがあるため、実際に運用する場合は、1回だけでなく何回も行うようにすると段階的に良くなる過程が見えて良いのではないかと思います。

一方で、記述後の表現やスケール、また作成時間に関して難しさを感じた部分もあったので、個人ではなく組織全体で共有しながらループリックの事例を積み重ねていく必要があると感じました。

(スポーツ科学部 助教 井上 望)

## ループリック実践報告会

● 開催日:2019年1月25日(金)

学部により選出された教員が課題ループリックを授業で試用し、試用から得た経験等を全学的に共有することで、今後のループリック活用推進に向けた足掛かりとしていくことを目的に、ループリックを試用した教員を対象としたループリック実践報告会を開催しました。

本報告会では、国際教養学部の齊藤公輔准教授がモデレーターを務め、個人ワークとグループワークを中心に、課題ループリックの手法や効果、課題についてディスカッションおよび発表を行いました。また、全学的な展開に向けた施策やアイデア等についても、検討しました。



### 参加者の声

この実践報告会では学部横断的にグループを組み、各々がモニター調査にて試用したループリックの内容と効果について意見交換することで、「ループリック」とは何かを認識することができました。「ループリック」という名称について身構えてしまいましたが、これまで教員の頭の中にあっただ「評価の基準」を表に示して可視化することであると感じました。そして、ループリック作成による評価基準の可視化は、評価作業の効率化をもたらすだけでなく、学生に対して到達して欲しい水準を効果的に伝えるコミュニケーションツールとなりうると思いました。ループリックを導入することは、教育の質向上の手段であることは勿論のこと、教員の負担軽減と研究時間確保の手段でもあることを実感することができました。

(総合政策学部 准教授 中村将人)